



Title	日本語交感発話慣用表現におけるスタイルの用い方：新しいスタイルの出現に着目して
Author(s)	肖, 潔
Citation	国語国文研究, 159, 64(1)-49(16)
Issue Date	2022-08-22
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/90700
Type	article
File Information	kokugokokubunkenkyu_159_49-64_rev.pdf



[Instructions for use](#)

日本語交感発話慣用表現における スタイルの用い方

——新しいスタイルの出現に着目して——*

肖 潔

1. はじめに

スタイル、いわゆる文体とは、話し手や書き手が相手、状況や場面、目的、伝達手段に合わせて行った表現選択に伴い、談話の言語的特徴に生じた偏りのことを指す(日本語記述文法研究会 2009:193)。本研究で述べるスタイルは「デス・マス」を付けるかどうかの形式に着目するものである。普通体(常体)と丁寧体(敬体)の両方の形式で表示できれば、スタイル分化がある。一方、片方しか選択できないのであれば、スタイル分化はない。スタイル分化の基本的なパターンは次に示すように、付加型と切り替え型がある。

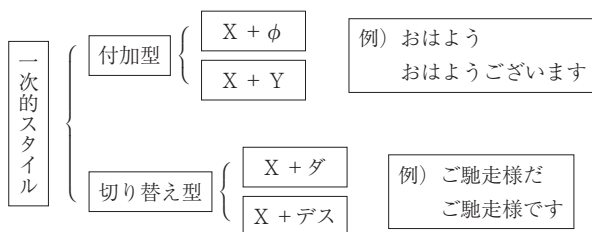


図1 スタイル分化の基本的パターン

* 本論は、2021年度日本語学会秋季大会(2021年10月)の口頭発表における一部の内容をもとに、大幅に修正・加筆したものである。執筆に際し、貴重なご指摘をくださった指導教員の加藤重広先生に心から感謝申し上げる。そして、査読者の2名の先生方から大変有益なご助言をいただいた。ここに記してお礼を申し上げる。本稿における不備や誤りは筆者に帰する。なお、本研究は、JST次世代研究者挑戦的研究プログラムJPMJSP2119の支援を受けたものである。

日本語交感発話では、あいさつのような形式的言語 (formal) が多くみられ、スタイルが丁寧体と普通体のように分化できるものもあれば、「こんにちは」「さようなら」「どうも」のように分化できないものもある。しかし、近年、本来スタイル分化できないものも「こんにちはっす」のように「っす」をつけて「ちは」と「ちはっす」のように分化ができるようになっている。呉 (2020) は、「こんにちは」→「こんにちは」→「ちは」→「ちはっす」のような新しい丁寧体を「ネオ敬語」として扱っている (ibid.: 125-165)。このような言い方は通常用いられないが、会話場面・話者同士の身分によって使用される場合もある。ただし、「おはよう」と「おはようございます」は相手との関係により選択されるもので、丁寧さがはっきりと異なるものである。それに対して、「ちは」と「ちはっす」はちょっとした差のみである。小さい差異で相手との関係を微妙に調整しているのである。このようなスタイル分化は、図1で示したような一次的なスタイルには当てはまらず、逸脱的で二次的なものとして扱いたい。

「ネオ敬語」としての「っす」に関して、語用論的機能の考察 (呉 2020:125-165)、および社会言語学の視点からの考察 (中村 2020) はあるが、交感発話において、スタイル分化のない慣用表現がいかにして分化できるようになったのかという点については疑問が残る。本研究は、このような現象に対して、本来の慣用表現におけるスタイル分化のあり方、および現在の若者言葉などで現れたスタイルの形態的变化を考察し、その仕組みを明らかにしていく。その結果、交感発話の慣用表現は慣習化が進むにつれて、その主要部が名詞化し、コンピュータ「ダ」の丁寧形「デス」「ゴザイマス」(もしくははくだけた「っす」) が付くようになったり、丁寧な意を表す「さま」を転用したくだけた言い方「さん」(「ちゃん」) が付いたりすることが明らかになった。

本稿の構成は次のとおりである。まず2節で先行研究を踏まえ、本稿の課題を示す。3節で慣用表現のスタイルのあり方と新しいスタイルについてデータを分析して考察する。4節でまとめと課題を述べる。

2. 先行研究

現代日本語のスタイルについて、主として日本語記述文法研究会 (2009:261-264) の記述を要約して示す。「丁寧語がつくつかないかは、日本語においては、文体を決定する言語形式上の標示となる」(ibid.:261)。待遇の表現の違いにおいて、丁寧語としてのデスマス体を丁寧体、デスマス体が用いられない文体を普通体という。また、「です」よりさらに上の丁寧さを表す「ございます」は特別丁寧体 (ゴザイマス体) という。そして、述語の丁寧さを表すとき、「動詞述語には『ます』、そのほかの述語には『です』がつく」(ibid.:261)。加えて、「ございます」は、形容詞¹ 述語に接続するときは、連用形語尾の「-く」が変化した「-う」の形「うれしゅう」などに接続する。

¹ 日本語記述文法研究会 (2009) では、形容詞・形容動詞をそれぞれイ形容詞・ナ形容詞のように記述されている。

形容動詞述語、名詞述語の場合は、「だ」を「でございます」に置き換えればいいという (ibid.:262)。なお、特別丁寧体は、あらたまった場面での自己紹介やあいさつ、手紙など、限られた場面での使用になるが、「おはようございます」「ありがとうございます」は、あいさつ表現として慣用化したものである (ibid.:262)。

先行研究の記述によると、現代標準日本語の「です」が接続できる述語は形容詞・形容動詞・名詞である。また、あいさつ表現は慣用化したものだと思われる。しかし、日本語の実態では、本来スタイル分化できないあいさつ表現が「です」を付けられる現象がみられる。それを踏まえて、交感発話の慣用表現のスタイルのあり方はどのようなになっているのか、スタイルはどのように形成され、現在どのように変化しているのかを明らかにしたい。そこで、本稿では、「です」を接続できるものという基準のもとにスタイル変化の形態的仕組みを探ることにする。

3. 分析

3.1 交感発話における一次的スタイル

日本語の交感発話では、あいさつのような慣用表現 (あいさつに限定しない) が多くみられる。言語学において、慣用は convention (『日本語文法事典』) であり、「慣用化」「慣習化」(conventionalization) という言い方もある。これらの慣用表現では、「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」「どうも」のように文体の分化がないものがあるほかに、「おはようございます」と「おはよう」のような文体分化できるものもある。本節では、これらの表現を考察し、スタイル分化の特徴を捉えていく。スタイル分化は、通常図1で示されたような一次的なスタイル (丁寧体と普通体) の分化のことを指す。次に、スタイル分化できる表現と分化できない表現を挙げる。

〈一次的スタイル分化できない表現〉

- (1) さようなら
- (2) ごきげんよう
- (3) こんにちは
- (4)こんばんは
- (5) どうも

〈一次的スタイル分化できる表現〉

- (6) おはよう/おはようございます
- (7) ありがとう/ありがとうございます
- (8) すまない/すみません
- (9) お疲れ様 (だ) /お疲れ様です

上記の例からみられるように、(1) ~ (5) は一次的スタイルにおいて分化できない表現で、日々のあいさつに用いられているものである。一方、(6) ~ (9) は一次的スタイルにおいて分化ができる表現で、「です・ます」をつけるか、「ございます」をつけるものである。前述のとおり、「です・ます」「ございます」は述語につくものであると分かるが、一次的スタイル分化できるものと分化できないものはどのような文の仕組みを持っているのか。以下、これらの例に関して考察する。

「こんにちは」や「こんばんは」は「形としては不完全で」(柳田 1946:105)、「今日(こんにちは)はご機嫌いかがですか」「今日はよいお天気ですね」などの表現の後半が

略され、昼間に人に会ったときのあいさつとして定着したものと言われている。

「ごきげんよう」は、別れるとき・会ったときなどに使う上品なあいさつ言葉である。「よう」は「よい」の連用形「よく」のウ音便からきている（『明鏡国語辞典』第三版、以下『明鏡3』）。別れるときに祈る気持ちを意味し、「ご機嫌よくお過ごしください」というように、相手に対してポジティブ・ポライトネスという配慮を示して、会話終結のあいさつとして用いられる。一方、出会ったときに、相手の〈いま・現在〉の状態を評価し、「ご機嫌いいですね」「本日もごきげんよう」とのように、「こんにちは」のかわりに会話開始のあいさつとしても用いられる。よって、「ごきげんよう」は、表現後半の述部が省略され、「こんにちは」「こんばんは」と同様に慣習化して不完全な文のままとなっている。

一方、「おはよう」は「(略) 本来は早く起きたねと、相手の勤勉を感嘆する意味」(柳田 1946:106)である。朝、自分より先に出ていた人に対して、「お早いですね(お元気で何よりです)」という意味を込めて「お早う(おはやう)お越しで」などと声をかけていたのが始まりとされている。「お早い」を連用形「よく」のウ音便化して、「おはよう」となったと考えられる。また、「ありがとう」は形容詞「ありがたい」の連用形「ありがたく」がウ音便化したものである。この二つの表現は「ごぞいます」を付加してスタイル変化できている。しかし、「ごきげんよう」は同じようにスタイル変化する事例はみられていない。考えられる理由としては、「ごきげんよう」は古風で、上流階級の使用に限られ、「おはよう」「ありがとう」のように日本社会の一般人にも幅広く使用されることはなかったため、「ごぞいます」との結合まで進められなかったというものである。

さらに、「さようなら」は、「然様(さよう)ならば(それならば)」の変化した語であり、「ば」は接続助詞で、そうであるならば、それならから転じて別れの挨拶に用いられている（『日本国語大辞典』第二版）。要するに、本来は、後続の「お別れですね」「ご機嫌よろしく」などのような言葉が略され、さらに「ば」がとれ、「さようなら」の形に定着したと考えられる。接続表現が慣習化した結果である。

加えて、「どうも」は、副詞として「①ははっきり断定できない、なんとなくそのような状況だと感じられる気持ちを表す。②感謝したり謝ったりする気持ちを強めて表す。③軽い、また、ややあいまいなあいさつの言葉」（『明鏡3』）である。「どうもありがとう」「どうもご無沙汰しておりました」「どうもすみません」など、あいさつのときや謝意・詫びを表すときの意を強調する。また、「どうも」に簡略化され、「どうもどうも」と重ねて用いるときもある。これは、修飾語を起源としたあいさつ言葉である。

上記の考察および日本語記述文法研究会（2009:261-264）の記述を踏まえると、一次的スタイルの分化ができる表現は、付加型と切り替え型で丁寧体と普通体の分化ができるが、分化できない表現は、主として不完全な文が慣習化、形態化した結果だととらえられる。しかし、一次的スタイル分化は聞き手が目上・目下、親疎により用い方が分かれているが、同じ階層にいる人、例えば、知人関係の会話中に、新しいスタイルをもって相手との距離を調整する事例がみられる。次節では、知人関係における

逸脱的スタイルの会話を考察する。

3.2 二次的スタイル

交感発話の慣用表現には文の成分によって、述語に丁寧語・特別丁寧語を付加できないものと付加できるものがそれぞれあると明らかになったが、近年、本来丁寧語を付加できない表現にも「です」を付けるようになった。本節では、本来「です」を付加できない、あるいは付加する必要のない表現にあえて「です」「っす」を付加した表現に着目し、なぜ「こんちはっす」のような表現が現れたのかを分析する。

本稿では、日常会話を中心に調査するが、書き言葉と独話（学会講演・講演など）の話し言葉も補足的な考察対象にする。日常会話については、『日本語日常会話コーパス』モニター公開版（以下、CEJC）を使用する。CEJCは、日常場面における自然会話（男性・女性、10歳～70歳までを含める）を100時間分の映像を録画録音して公開しているため、本コーパスを中心に検索する。また、書き言葉と独話の話し言葉については、コーパス検索アプリケーションの「中納言」を使い、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）。中納言バージョン2.4.5。データバージョン2021.03）と『日本語話し言葉コーパス』（以下、CSJ）。中納言2.4.2。データバージョン2018.01）で検索した。

なお、新しいスタイル、いわゆる二次的スタイルは主に日常会話に現れているため、日常会話コーパスを中心に考察を行っている。とりわけ、「こんにちは」「どうも」「いただきます」は日常会話コーパスで考察例を集めた。その他、「お疲れ様です」はその変化類が多様であるため、日常会話コーパスから書き言葉と独話の話し言葉コーパスまで考察範囲を広げて用例を集めた。また、「おはよう」の変化は、日常会話コーパスでは適切な用例がみられなかったため、書き言葉と独話の話し言葉コーパスを中心に調査した。

3.2.1 「こんにちは」の変化

まず、次のような「こんにちは」に関する用例を見る。

(10) [T007-006]² (抜粋)

((IC01は70-74歳の男性であり、実家で弟・妹とテレビを見ながら雑談している))

² 会話データは基本的に日本語日常会話コーパスモニター公開版(CEJC)におけるトランスクリプトをもとにしているが、分かりやすく示すように最小限の修正を行っている箇所がある。

トランスクリプト記号

[]音の重なり = 発話の密着 (0.0) 沈黙・間合い(秒) (・) 短い間合い

:: 音の引き延ばし . 語尾の音調の下降 ? 語尾の音調の上昇

。。 小さな音量 (huh) 発話の中の笑い (()) 状況説明 L ラフ、笑い

- 01 IC01 それじゃあ 地域の中でなんかできるって
 02 → IC01 地域の中でいつも今まで通ってるだけなのに、
 こんにちにはもしたくない人間のところに
 03 IC01 すいません、きょうのなんかありませんかって。
 なかなか言えないじゃない＝。
 04 IC04 = (hhh. うん)。

上記の例 IC01 は、現在の年寄の引きこもりの現象について話している。定年後の年寄は、人との付き合いが少なくなり、地域の中で「こんにちにはもしたくない人間のところに」お願いもしにいきたくないという (02)。「こんにちには」は、本来あいさつをする際に用いられるため、「こんにちにはもしたくない」というのは、あいさつもしたくないと換言できる。そして、「こんにちにはもしたくない」の「も」は副助詞としてとりたての機能を持っており、「こんにちにはをする」という言い方が用いられていると考えられる。

要するに、「こんにちには」はあいさつの代表的表現として扱われ、「こんにちにはをする」というのは、「日常的な、簡便なあいさつをする」という意味を指している。別段広く使われているわけではなく、アドホックな用法である。「こんにちには」は、発話の中に引用され、名詞化された言葉として文の中に組み込まれている。そのほか、「さよならをする」などの類推も考えることができる。次の例を挙げる。

(11) [T006-002] (抜粋)

((IC01 は 25-29 歳の男性、大学で後輩 2 人と就活について話をしている。IC03 と IC02 は後輩であり、それぞれ 20-24 歳の男性と 20-24 歳の女性である))

- 01 IC03_青木 いつも会うんすよ。
 02 IC03_青木 食堂で＝。
 03 IC01_尾形 = うん。
 04 → IC03_青木 で: あー坂下さん、こんちはっすつって;いや こいつこうなんす
 よっつったら、じゃ今週やります (hhh.か:) [っつって＝
 05 IC02_富永 [hhh.
 06 IC01_尾形 = ああ。

上記の例は 20 代の若者たちの間の会話である。IC03 はある授業を履修したときの話をしている。発話中の「坂下さん」はその授業担当の先生であるらしく、授業後に一緒に飲み会にもいく人である。IC03 によると、その先生に食堂でよく会い、会うときに「こんちはっす」とあいさつをしているという (04)。「こんちはっす」は「こんにちには」の短縮形「こんちは」の後ろに、「です」の短縮形「っす」を付けている。IC03 から見ると、坂下さんは一緒に飲み会に行くほど親しい人であり、「こんちは」とくだけた言い方を用いることができる。しかし、坂下さんは IC03 にとっては権威のある

先生であるため、「こんにちは」だけでは不適切であり、親しみを感じる丁寧語「っす」を付加して、「こんにちはっす」を用いた。

(10) と合わせて見ると、「こんにちは」は一つの塊として引用³されることに伴い、名詞化して、「ダ」や「デス」のようなコピュラが付けられるようになったと考えられる。また、あいさつとして用いる際には、「ダ」より「デス」のほうが丁寧であることから、「デス」を付加することが選好されるといえる。上記の分析を以下のようにまとめることができる。

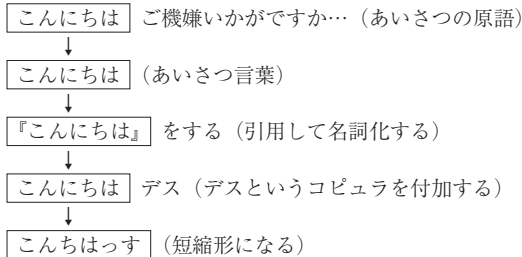


図2 「こんにちは」のスタイル変化

3.2.2 「どうも」の変化

また、「こんにちは」のほかに、以下のような「どうも」の例もみられる。

(12) [T003-015] (抜粋)

(IC01 は朝食準備をしている。隣りに住む IC01 の母 N10A が勝手口 (映像ではキッチン左手) に顔を出し、少しのあいだ IC01 と息子 IC04 と会話をする。IC01 は 35-39 歳の女性で、東京都出身である。)

- 01 IC04 なんか今 虫入ったぞ。
02 IC01 え。ほんと?。(・) 虫入った?。
03 N10A ああ。

³ 文法論の問題としての「引用」とは、所与と見なされる言葉を再現して示す形をとる表現をいう(『日本語文法事典』)。所与と見なされる「引用されたコトバ」は、さまざまな形で文に組み込まれる。例えば、①「誠は、『おはよう』と言った。」、②「誠の『おはよう』が一室の雰囲気と和ませた。」、③「誠は、大声で『おはよう』。」、④「『おはよう』とは、あいさつの言葉だ。」などがある (ibid.)。これらの中で、①のような引用格「と」で示す構文は最も典型的なものであるが、本稿でいう「引用」は②に近いものである。

- 04 IC01 ああ。
 05 N10A 開けといてごめん ごめんね。
 06 IC01 大変 大変。
 07 IC01 うん。
 08 → IC01 どうも (L でした)。
 09 N10A ごちそうさま。

(12) は、母 N10A と娘 IC01、孫 IC04 の会話の最後の一部である。N10A は勝手口に顔を出し、娘が植えたそら豆をもらって食べながら、孫と娘といろいろ雑談をしている。母は自分の家へ戻る際に、娘 IC01 は「どうもでした」(08) と言い、母 N10A は「ごちそうさま」と返事して帰った。「どうも」はあいさつとして用いられているのは言うまでもない。3.2.1 節で述べたように、「どうも」は、あいさつのときや詫び・謝意を表すときに表現の前に付加して気持ちを強調する意味を表している。その後、「どうも」のように簡略化され、「どうも」だけでも主にあいさつや謝意を表すようになった。

しかし、IC01 の「どうもでした」(08) は「どうも」に「です」の過去形「でした」を付けている。IC01 は東京都出身の人であり、「どうもでした」は方言とは考えにくい。母との会話を終了するときに用いられるあいさつのような、交感機能を持つ表現だと考えられる。「いろいろとありがとうございました」という意味を込めていると思われる。また、母親は目上の人であるため、「です」を付けて丁寧さを表すようにしている。さらに、「でした」での「タ」は会話が終了したときに用いられるものであるため、アスペクトでの完了を示している。「どうもでした」だけではなく、「どうもです」のような例もみられる。次の会話を挙げる。

(13) [T003-021] (抜粋)

((子供の幼稚園時代のママ友 4 人と友人宅で昼食会。音楽サークルと一緒に参加しており仲がよい。合唱の練習やランチ会をたまに行なっている。))

- 01 IC04 ありがとう: (0.1)。いいでしゅ。[いいでしゅ。
 02 IC01 [だいじょぶ?。
 03 IC03 これどこに入れ。なんか [場所が変わっちゃった。
 04 → IC04 [はい。(0.1) どうもです。

(13) はママ友 4 人と友人宅で昼食会をしているときの会話の一部である。IC01 が IC04 におかずを配っている。途中で IC03 の発話を挟んでいるが、IC04 は IC01 に対して「どうもです」(04) と謝意を表しているとみられる。また、「デス」が「ダ」の丁寧形であり、「どうも」だけでは丁寧さを表せないため、「デス」を付けている。そして、未だ会食中であるため、完了アスペクトの「タ」形を用いない。

さらに、「どうもです」の普通形が「どうもダ」となる。「どうもダ」は日常会話に

はそぐわないため、あまり用いられない。「ダ」は指定の助動詞とされてきて、名詞に後接したり、連用句に後接したりして述部を作るのに用いられる基本的な無標の形式要素である(加藤 2006:32)。「どうも」は副詞「どう」に助詞「も」が付いてできたものであるが、簡便なあいさつ言葉として用いられている。そのため、「どうもダ」は『『どうも』』のように、「どうも」の部分を用いて、被引用部は名詞化されていると捉えられる。

上記「どうも」のスタイル分析をまとめると、次のように示すことができる。

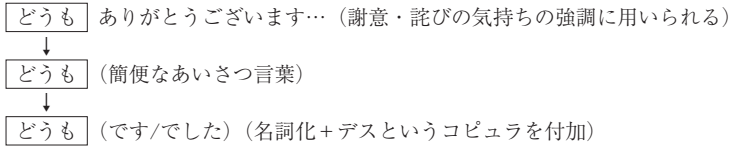


図3 「どうも」のスタイル変化

3.2.3 「いただきます」の変化

(14) [T003-021] (抜粋)

((13)と同じ会話場面である。子供の幼稚園時代のママ友4人と友人宅で昼食会。))

- 01 IC04 はい。
- 02 IC03 あ。
- 03 IC05 [じゃあ
- 04 → IC04 [いただきますしゅしてください @子供とのやりとり。
(中略、(子供は「いただきます」と返事))
- 05 IC04 はい。@子供とのやりとり
- 06 IC04 どうぞ。@子供とのやりとり

IC04 は母親であり、子供を連れて昼食会に参加し、子供の食事をお世話している。子供にご飯を食べさせるとき、「いただきますしゅしてください」(04)と子供に礼儀作法を教えている。そのうちの「いただきますしゅ」はわざと子供むけの幼児語にしていると思われる。一方、「いただきます」に「してください」を後続するため、発音しやすいように、真ん中の「ます」を「ましゅ」に音変化しているという可能性も考えられる。また、「～してください」は「する」という動詞のテ形に接続してモダリティと関わる基本的な依頼の形式であり、補助動詞として扱われている(『日本語文法事典』)。そして、「する」は、ある種の行為や動作を行うという他動詞であり、他動詞の前に目的格の「ヲ」を接続するのが普通である。要するに、「いただきます(を)してください」が本来の全文である。「ヲ」は省略されているが、格助詞としている「ヲ」は、名詞に後接し、《名詞+格助詞》全体が述部を修飾するのが普通である(加藤 2006:73)。よっ

て、「いただきます」は引用されて、名詞として扱われ、一つの塊になったととらえることができる。下記のようにまとめることができる。

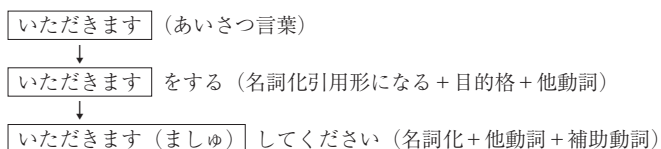


図4 「いただきます」のスタイル変化

3.2.4 「お疲れ様です」の変化

(15) [T003-021] (抜粋)

((13)と同じ会話場面である。子供の幼稚園時代のママ友4人と友人宅で昼食会。))

- 01 IC05 どうも:。
 02 → IC04 あー。お疲れさまだ:。
 03 IC01 どうも =。
 04 → IC05 = お疲れ[ちゃん]でございま:す。
 05 IC02 [お疲れさま:。
 06 IC01 [あー。ありがとうございます。いただきます:す。
 07 → IC03 [お疲れです。

(15)は昼食会が始まる場面である。会話から見受けられるように、「お疲れ様です」のような決まり文句が、「お疲れさまだ」(02)、「お疲れちゃんでございます」(04)、「お疲れです」(07)のように言い換えられている。「お疲れ様です」は、丁寧さを表すために「お疲れ様」に丁寧語「デス」を付加している表現であるが、その普通体は通常「デス」を除去して、「お疲れ様」のように言うことができる。「お疲れ様」は、本来「疲れる」という動詞の連用形が転成名詞の「疲れ」になり、その語頭に接頭辞「お」を付加したうえで、さらに、「様」という接尾辞を付けて丁寧に言う「美化語」(日本語記述文法研究会2009:260)である。この「様」は、「中村様」「お母さま」のように人を表す名詞または身分などに付いて尊敬の意を表すことがある一方、「お疲れ様」「おあいにく様」「ご苦労様」のように、「お」「ご」を冠した名詞または形容動詞に付いて、丁寧に言う場合もある。さらに、普通体のあいさつとして用いられるとき、「様」を除去して、単なる「お疲れ」を言う用法もある。「お疲れ様」は「相手が疲れていること」の意の丁寧な表現である。

(15)における「お疲れさまだ」(02)は「デス」という丁寧体を普通体の「ダ」に変えている。そのほか、「お疲れちゃんでございます」(04)は、「デス」を特別丁寧体「でございます」に変えて「お疲れ様でございます」というと、重々しい口調になり、

雰囲気によそよそしくなるため、「お疲れ様」の「様」を、人を表す名詞につくものに転用し、愛称の「ちゃん」を代わりに用いている。そうすると、全体として冗談めかした表現効果を達成でき、場の雰囲気を柔らかくするとともに周りの人との距離を縮めることができる。さらに、「お疲れです」(07)は、「お疲れ」という転成名詞に「です」を付加したものである。「お疲れ」だけでは丁寧さが不十分であるが、「お疲れ様です」というと、距離を遠ざけることになるため、「お疲れ」を引用の形にして、ややくだけた口調で「です」を付加したと考えられる。

書き言葉では、「中納言」(2.4.5、データ 2021.03)の文字列検索モードを用いて「お疲れ」と検索を行った結果、次のような例もみられる。「様」を人の表す名詞につくものに転用し、そのうえで、丁寧さのレベルを下げて「さん」「ちゃん」に変えている。また、「お疲れさま(～さん・～ちゃん)」のように単独に用いる例もあれば、名詞化して「です(でした)」「でございます」のようなコンピュータの丁寧語を付加している例もみられる。

(16) 大変だけど、みなさんお疲れ様でした!!!主催もお疲れさんでした!気をつけて♪

(Yahoo! ブログ 2008)

(17) 「あるあるホンマお疲れさんです。あとお前もオタクです」にウケた(笑)。

(Yahoo! ブログ 2008)

(18) 今日は胸を寄せて上げておいてくださいました。旦那さんは髪の毛を寄せて、会社のほうに。お疲れさんでございます。人間で一番大事なところはどこののか?やはり顔でしょうね。

(特定目的・ベストセラー『有効期限の過ぎた亭主・賞味期限の切れた女房』2002)

(19) 山口に一応謝って見せてから、今度は岡本にあいさつをした。「おはようございます」「お疲れさん」。

(出版・書籍『彼岸の奴隷』2004)

(20) いやー、お疲れちゃん!!!ただいま、くりいむのオールナイトを聞きながら、ちょっとだけPCタイムじゃないかーい。

(Yahoo! ブログ 2008)

(21) 忙しかったね～朝倉総理♪お疲れちゃんでした～～官邸から逃げ出す朝倉総理♪可愛かったっすよ～～

(Yahoo! ブログ 2008)

また、「お疲れ」は接頭辞「お」が付いた転成名詞として、その後ろに「つす」「です」「でございます」のようなコンピュータおよびその丁寧体に変化する例が多くみられる。特に「お疲れです」の場合、他人に対して用いるあいさつ言葉として働くだけではなく、話し手自身が疲れていることを指す場合にも用いられることがある。

(22) すこし密度が濃すぎて、お疲れになったかもしれない。

(図書館・書籍『スーパードールたちの言葉は泉のように』1996)

(23) 「これでけっこうです。お疲れのところ、ありがとうございました。」

(出版・書籍『烈火の剣』2004)

(24) 連日深夜まで外にいるか残業かのどちらか。昨夜遅くに来た短いメールには「ちょっとお疲れです」ってありました。彼が私にそういう事を言うのはとても珍しいこと(年に数回)。

(Yahoo! ブログ 2008)

(25) その手で頭部を押すようにして、ぴょこんと頭をさげた。「あ、ども。お疲れっス」一般社会ではさして珍しくもないのだろうが、本庁一課では、茶髪の茅野はやはり浮いて見える。

(出版・書籍『彼岸の奴隷』2004)

(26) でもまあ、さぞお疲れでございましょう。ともかく客間の方へ行ってお休みなさいまし。

(図書館・書籍『水滸伝』1990)

さらに、「お疲れ様」の場合は、「お疲れ様」も名詞化して引用形になり、「お疲れ様のプレゼント」(29)という例がみられる。名詞になってから、同様に「っす」「です」「でございます」のコピュラおよびその丁寧体を付加できるようになっている。

(27) 何か良い案はないでしょうか。ご苦労様は目上が下に行くのですが、お疲れ様でございます、は下が上に言う言葉。お気をつけても「道中事なく」という意味ですからね。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

(28) え、まあ良いけど…三十. お疲れ様でした、お疲れ様っす☆回す方には、あとでゲスブ等にお持ちいたしますね(*´▽`)

(Yahoo! ブログ 2008)

(29) 一年間ほんとに頑張っていていい業績を出すことができたのでわが事業部のスタッフにお疲れ様へのプレゼントを。

(Yahoo! ブログ 2008)

上記のスタイルの変化を見ると、「お疲れ様です」はあいさつ言葉の慣用表現として働いているが、「お疲れ」「お疲れ様」はそれぞれ名詞化したため、「ダ」「です」「っす」または特別丁寧語の「でございます」のようなコピュラを付加できるようになった。そのほか、「様」を、人を表す名詞に後続するものに転用したことで、「お疲れさん」「お疲れちゃん」の変化が現れ、さらに引用され、名詞化してコピュラを付加できるようになったと見受けられる。その変化を下記のようにまとめることができる。

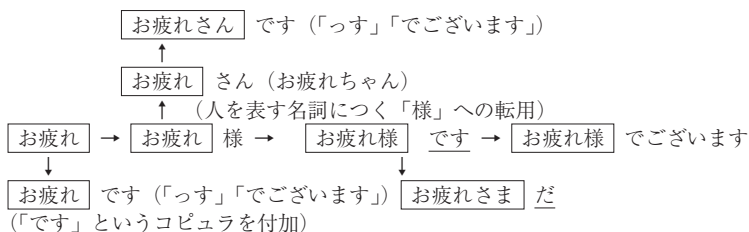


図 5 「お疲れ様です」のスタイル変化

3.2.5 「おはよう」の変化

そのほか、「おはよう」にも類似したスタイルの変化が見受けられる。まずは、BCCWJ「中納言」(2.4.5、データ 2021.03)の文字列検索モードを用いて検索を行った。「おはようさん」という用例が5件あることがわかった。そのうち、「おはようさん」と「おはようさんです」という用例がそれぞれ見受けられた⁴。

- (30) おはようさん。さっき、質問者が自分の質問に回答してただけど、そんなことできる？ 別 ID を取れば簡単にできる。
(Yahoo. 知恵袋)
- (31) おはようさん、まだまだ素人で又失敗しました。すみません。
(Yahoo. ブログ)
- (32) 久しぶりにやってみるか。ウンウン。(|° | 㐂 | ° |) としゃべろうバトン。
(|° | 㐂 | ° |) こんにちは。ハイ、おはようさんです！ (|° | 㐂 | ° |) 俺の名前はポダム。なんか言いにくい名前やなあ (略) (Yahoo. ブログ)
- (33) →六十六→六十四→九十八→百七十八→五百九十三ベル (^○^)。おはようさんです (◡ ◡) #雨ですなね～ (◡ ▽;)。冷たい雨がぼつぼつと降っている、よし、地方。北の方では雪なのかな？
(Yahoo. ブログ)
(BCCWJ)

「おはよう」は 3.1 節で述べた通り、「お早い」という形容詞のウ音便が「ございます」という特別丁寧語が付加されて「おはようございます」のような慣用表現になったと言うまでもない。しかし、(30)～(33)でみられるように、「おはよう」が一つの塊として名詞化したため、名詞や形容動詞に付けて丁寧にする「さん」を用いて「おはようさん」というスタイルも現れている。また、「おはようさん」はさらに名詞化して、引用形になり、「デス」のようなコピュラ「ダ」の丁寧形が付けられるようになった。

⁴ 例文を読みやすくするために、文脈中の区切り記号(語境界の「|」と文境界の「#」)を消して、代わりに句読点で示すようにしている。

ブログは話し言葉に近く、くだけた文体が多いため、「おはようさん」のような新しいスタイルのあいさつ言葉が見受けられるようになったと考えられる。次に、CSJ「中納言」(2.4.2、データ 2018.01)において、文字列検索モードを用いて検索を行った結果、「おはようさん」を使用した用例が3件あることがわかった。ただし、この3件はすべて同じ話者が連続的に発話した言葉であり、次に示すとおりである。

- (34) (略) 挨拶にも丁寧な言葉が多くて、おはようさん、おはようさんどす。おはようさんでございませと。だんだん丁寧になります。おめでとうさんお待ち遠さんお待ち遠様って意味なんですがで (略)

(CSJ、筆者により修正した箇所がある)

(34)は模擬講演、個人的な内容に関するスピーチを行っている。「おはようさん」、「おはようさんどす(です)」のほか、特別丁寧体の「おはようさんでございませ」も現れている。しかし、「おはようさんでございませ」は文体が不統一でおかしいところがある(joking relationshipの間に用いられるかもしれない)。上記を踏まえ、「おはよう」のスタイルの変化は次のようにまとめることができる。

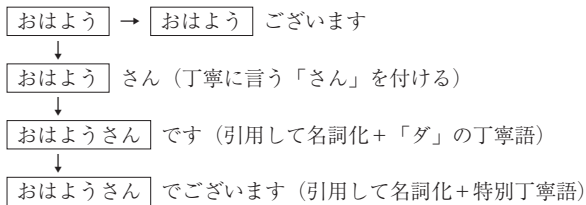


図6 「おはよう」のスタイル変化

4 まとめと今後の課題

本稿は、日本語交感発話の慣用表現におけるスタイルおよびその変化に着目して考察した。慣用表現のスタイルには文の成分がそれぞれ主題、主語、接続詞、修飾語、述語に近い表現であるため、「です」「ございます」というコピュラを付加できる表現と付加できない表現が存在していることがわかった。前者について特筆すべきは、「こんにちは」「どうも」「いただきます」「お疲れ」「おはよう」のような表現である。これらの表現は慣用表現を「引用」というプロセスによって名詞化し、一つの塊になったことで、「ダ」のようなコピュラを付けるようになったことが判明した。これらの新しいスタイルは、もともと活用できない慣用表現に「さん」「です(っす)」のような丁寧語要素を付けることによって、活用できるようになり、使用場面も広がった

ていると考えられる。したがって、交感発話慣用表現のスタイル変化の仕組みは下記の図のようにまとめることができる。

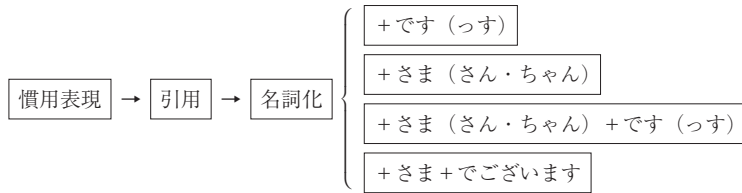


図7 スタイル変化の仕組み

とりわけ、気軽な会話場面で、親しさを示すために、同時に丁寧さも確保しようとするとき、新しいスタイルの「っす」「さん」のようなあいさつ言葉の働きが見えてくる。また、スタイルを柔軟に変えることによって、会話の場の雰囲気をはりやすくすると同時に、会話参加者同士の距離を近接化することができる。今後は、このような新しいスタイルの交感発話が、主にどのような場面に現れ、いかにして用いられ、具体的にどのように人間関係を調節しているのかという点を語用論的観点から明らかにしていく。

参考文献

- 呉 泰均 (2020) 『日本語聞き手待遇表現の社会語用論的研究』北海道大学出版会。
加藤重広 (2006) 『日本語文法 入門ハンドブック』研究社。
小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉 (2020) 『『日本語日常会話コーパス』モニター版の設計・評価・予備的分析』『国立国語研究所論集』18、17-33。
中村桃子 (2020) 『新敬語「マジヤバいっす」——社会言語学の視点から』白澤社。
日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法7 第12部談話 第13部待遇表現』代表仁田義雄、くろしお出版。
柳田国男 (1946) 『毎日の言葉』創元社。

[使用データ]

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』ver.2021.03、国立国語研究所、<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>。
『日本語話し言葉コーパス』ver.2018.01、国立国語研究所、<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>。
『日本語日常会話コーパス』モニター公開版、国立国語研究所、<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>、ひまわり全文検索システム。

[辞書]

北原保雄（編）（2021）『明鏡国語辞典第三版』大修館書店.

日本語文法学会（編）（2014）『日本語文法事典』大修館書店.

日本国語大辞典第二版編集委員会小学館国語辞典編集部（2001）『日本国語大辞典 第二版第六巻』小学館.

（しょう けつ・北海道大学大学院博士後期課程）